

# 諏訪の 景気動向

2024  
11月

(2024年10月末D・I調査)

製造業 p2  
先行き不透明で様子見

商業 p4  
急な季節変化へ対応

観光・サービス業 p5  
短い秋に集客

建設業 p6  
政治動向に関心



△本誌の電子版はこちらから

今月のコラム  
トランプ政権は日本経済に吉と出るか凶と出るか

OKAYA

## CONTENTS

概況	1
製造業	2
製造業 受注状況	3
商業	4
観光・サービス業	5
建設業	6
収益性状況	7
雇用状況	8
経営上の課題	8
諏訪地方主要経済指標	8
2024年10月の状況	9
● 材料・電気等コスト	9
● 価格転嫁	9
● 資金繰り	10
● 自社の業況	10
● 収益性	11
● 労働力 (パート含む)	11
回答全社：業況判断DIの推移	12
調査概要	12
コラム「トランプ政権は日本経済に吉と出るか凶と出るか」	13

## お天気マーク（調査月から見た状況）



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が10ポイント以上好転したか、3ヵ月前に好転して横ばいの時。



回答全社は好転しているものの、業種によって悪化企業もある時。



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が0～9ポイントの好転または悪化か、3ヵ月前も同様に横這いの時。



回答全社が悪化しているものの、業種によって好転企業もある時。



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が10ポイント以上悪化したか、3ヵ月前に悪化して横這いの時。

# 概況

## 2024年10月アンケート調査および 企業訪問ヒアリング調査による取りまとめ

諏訪地方168社のご協力で行った2024年10月の「景気動向調査 (DI調査)」は、**回答全社の「3ヵ月前」と比べた業況判断DIが3.5**で、前回調査時(2024年7月末、以下同)の△4.9から、**8.4ポイント改善**した。「3ヵ月前」と比べた製造業の業況判断DIは△1.8で、前回の△4.7から改善した。また、非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の同DIも13.2で、前回の△5.4から改善した。**「3ヵ月後」の業況予想DI**は、製造業が前回の10.4から△1.0へ悪化し、非製造業も△13.1で前回の11.0から悪化し、**回答全社では△5.3(前回10.6)**となった。

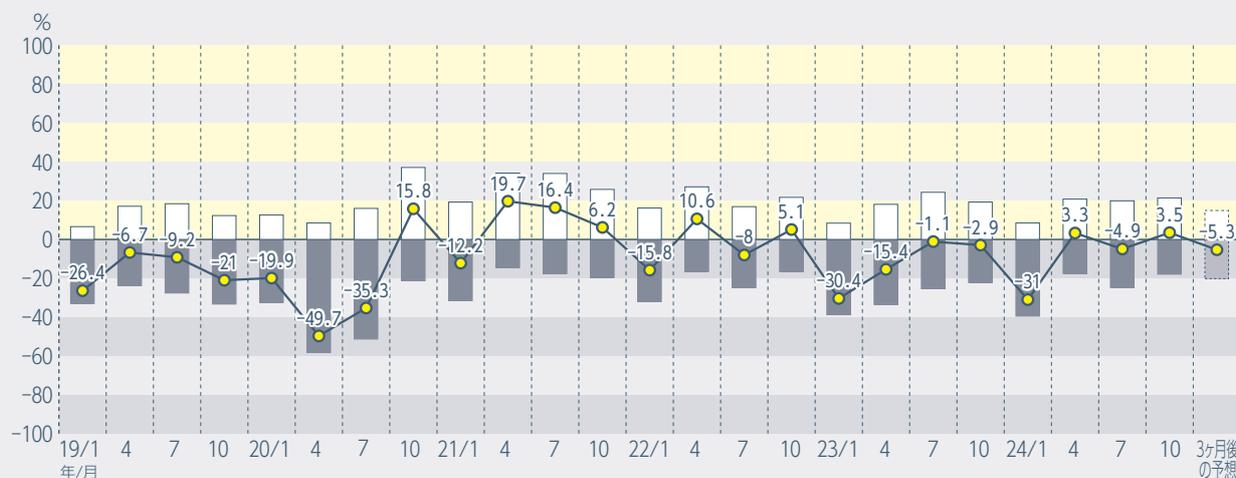
2024年10月の諏訪地方は、23回目の「諏訪圏

工業メッセ」が行われ、製造業を中心に県内外の359社・団体が出展し、技術力やサービスをアピール、全国各地から3日間で18,769人(速報値)が来場した。第36回諏訪湖マラソンも行われ、全国から約7,000人のランナーが秋の諏訪湖畔を駆け、観光にも寄与した。一方、第50回衆院選が行われたものの、**過半数を超える政党がなく、政局の不安定化が懸念**されている。さらに、米国の大統領選で、自国第一主義の**トランプ氏が当選したことで先行き不透明感**が強まり、地域企業からは日本経済への影響を懸念する声が出ている。国際情勢や政局が不安定なことから、様子見の状態となっている。

### ●産業別業況表

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全 体	168	21.4	60.7	17.9	3.5	168	23.2	45.8	31.0	-7.8	168	14.9	64.9	20.2	-5.3
製 造 業	107	20.6	57.0	22.4	-1.8	107	24.3	37.4	38.3	-14.0	107	16.8	65.4	17.8	-1.0
非 製 造 業	61	23.0	67.2	9.8	13.2	61	21.3	60.7	18.0	3.3	61	11.5	63.9	24.6	-13.1
商 業	26	23.1	61.5	15.4	7.7	26	11.5	61.5	26.9	-15.4	26	19.2	53.8	26.9	-7.7
建 設 業	23	13.0	82.6	4.3	8.7	23	21.7	60.9	17.4	4.3	23	8.7	82.6	8.7	0.0
観光・サービス業	12	41.7	50.0	8.3	33.4	12	41.7	58.3	0.0	41.7	12	0.0	50.0	50.0	-50.0

### ●回答全社：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移



# 製造業 業況



## 3ヵ月前との比較

【好転】企業は前回の21.7%から20.6%へ減少し、【悪化】企業も26.4%から22.4%へ減少した。材料やエネルギーコストは47.7%（前回53.8%）が上昇し、低下した企業はなく、依然コストの上昇が続いている。価格転嫁は、13.1%が完了（前回10.4%）し、20.6%が転嫁不足（前回21.7%）としている。

## 3ヵ月後の予想

【好転】予想の企業は前回の25.5%から16.8%へ減少し、【悪化】予想の企業は前回の15.1%から17.8%へ増加した。材料やエネルギーコストは45.8%（前回49.1%）が上昇予想で、低下予想は前回と同じ0.9%だった。価格転嫁は12.1%（前回17.9%）が完了予想だが、19.6%（前回27.4%）が転嫁不足を予想した。

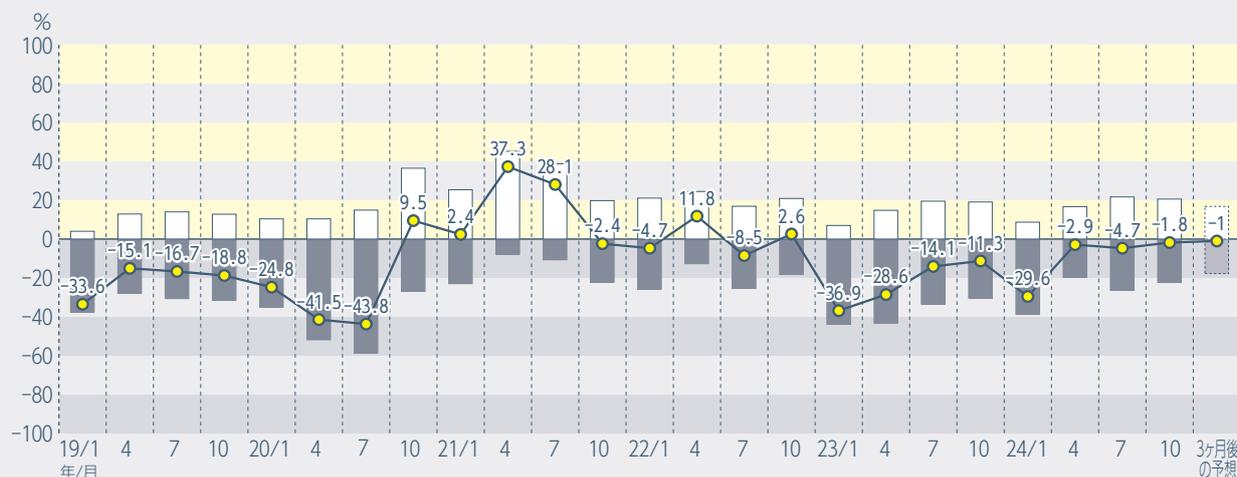
## 総体的な状況

中国をはじめとする世界景気の減速を背景に、大手製造業の業績が減速している影響で、地域企業の受注も不安定な状況が続き、先行きに不透明感がある。自動車関連は、認証不正問題で生産停止していた車両の受注が再開し、前年同月までの水準に戻ってきている企業もあるが、海外展開の不振などで一部メーカーのリストラが発表され、影響を予想する企業もある。半導体関連は工程によって格差があり、受注が増加し始めている企業がある一方で、依然として低調な企業もあり、取り扱っている製品により明暗が分かれている。省力化機械や工作機械関連は依然、設備投資に対する様子見の傾向が続き、回復に力強さが無い。

## 企業のひとこと

- 自動車部品関連は一定量動いているが、良いとは言えない。全体的に量産ものの数量が落ちている（金属製品製造業）。
- 多くの企業が設備投資を控えている感じがあり、見積もりだけで契約にならない案件が多くなっている。中国経済の影響もかなり出ている（一般機械製造業）。
- 日本、アメリカ共に政治の行方が不透明であり心配。再び円安傾向にあり原材料費等の高騰を懸念している（一般機械製造業）。
- 米国内の政策金利の動向、トランプ大統領による影響が読みにくい。良い要素も悪い要素もある（輸送機械製造業）。
- 精度の高いレンズを求められた場合の競争力において、日本製は世界的に強い。特に専用機に必要とされる高精度画像は需要が高く、一定水準以上の利益率を確保できる（精密機械製造業）。
- 世界的経済の落ち込み懸念が実感としてあり、取引先の手堅い業界とはいえ、今後もさらに厳しい経営が予想される（電気機械製造業）。

## ●製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移



# 製造業 受注状況

## 3カ月前との比較

受注状況DIは△0.9で、前回調査時の△7.6からやや改善した。規模別DIは、「1～29人企業」は5.4で前回の△22.6から改善した。一方、「30～99人企業」は△7.9で前回の10.3から悪化した。「100人以上企業」は△7.7で前回の0.0から悪化した。業種別（主要5業種）では、「一般機械」は△26.9から0.0、「輸送用機械」が△9.1から9.1、「精密機械」は△40.0から0.0と改善し、「金属製品」が△6.9から△13.3と悪化、「電気機械」は13.6で、前回の13.7とほぼ同値だった。不安定ながら、総体的に改善傾向が見られる。

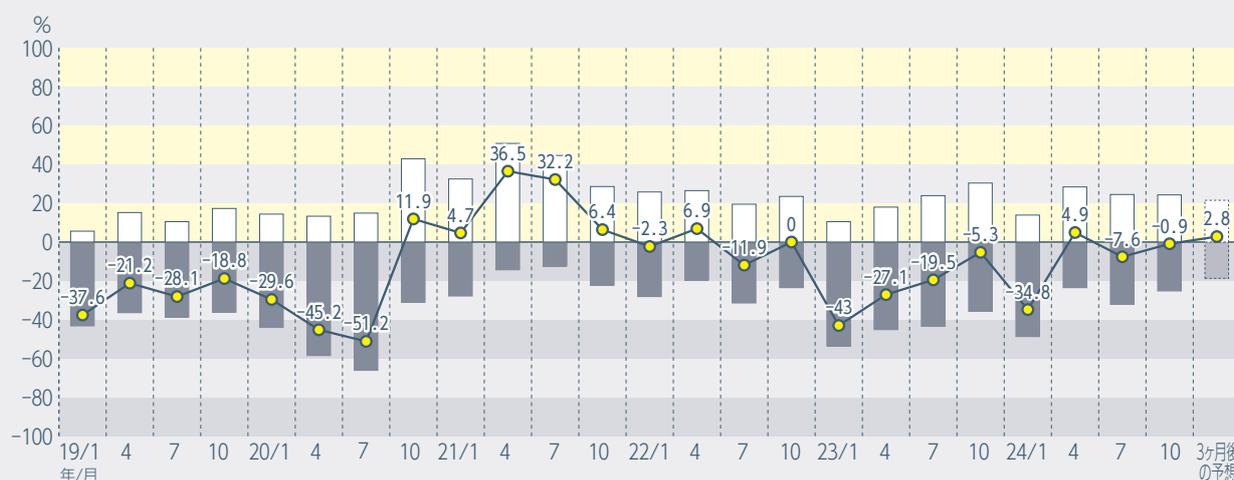
## 3カ月後の予想

製造業全体の受注予想DIは2.8で、前回の11.4から悪化した。規模別では「1～29人企業」が7.2で前回の7.5とほぼ同様だった。「30～99人企業」は前回の18.0から△5.3へ悪化し、「100人以上企業」は7.1から7.7へやや改善した。業種別（主要5業種）では、「精密機械」が前回の△10.0から25.0と改善したが、「電気機械」は36.4から18.2、「一般機械」は△3.9から△16.0、「輸送用機械」は9.1から△9.1、「金属製品」が10.3から3.3へ悪化した。不安定要素が多い先行きに対し、警戒感を持つ企業が増えている。

●業種別・規模別受注状況表

		3カ月前と比べて					前年同期と比べて					3カ月後の予想				
		回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI
製造業		107	24.3	50.5	25.2	-0.9	107	30.8	29.0	40.2	-9.4	107	21.5	59.8	18.7	2.8
規模	1～29人	56	28.6	48.2	23.2	5.4	56	30.4	25.0	44.6	-14.2	56	26.8	53.6	19.6	7.2
	30～99人	38	18.4	55.3	26.3	-7.9	38	34.2	31.6	34.2	0.0	38	15.8	63.2	21.1	-5.3
	100人～	13	23.1	46.2	30.8	-7.7	13	23.1	38.5	38.5	-15.4	13	15.4	76.9	7.7	7.7
中分類	金属製品製造業	30	20.0	46.7	33.3	-13.3	30	33.3	30.0	36.7	-3.4	30	23.3	56.7	20.0	3.3
	一般機械製造業	25	24.0	52.0	24.0	0.0	25	32.0	24.0	44.0	-12.0	25	8.0	68.0	24.0	-16.0
	電気機械器具製造業	22	31.8	50.0	18.2	13.6	22	31.8	31.8	36.4	-4.6	22	27.3	63.6	9.1	18.2
	輸送用機械器具製造業	11	18.2	72.7	9.1	9.1	11	18.2	36.4	45.5	-27.3	11	18.2	54.5	27.3	-9.1
	精密機械器具製造業	8	25.0	50.0	25.0	0.0	8	50.0	12.5	37.5	12.5	8	37.5	50.0	12.5	25.0

●製造業：「3カ月前」と比べた受注状況DIの推移





## 3カ月前との比較

業況判断DIは7.7で、大幅悪化した前回の△31.9から改善した。来店客数DIも前回の△36.3から△7.7へ、マイナス水準ながら回復している。ただ、前回同様、材料コストが低下した企業がなく、61.5%（前回77.3%）が増加した。依然、仕入れ価格の高騰が続いている。

## 3カ月後の予想

業況予想DIは、「好転」予想の企業が、「悪化」予想の企業を下回り、前回の4.5から△7.7へ悪化した。原材料などのコストは減少する予想の企業はなく、依然65.4%（前回68.2%）が上昇を予想している。価格転嫁不足予想の企業が19.2%あるが、価格転嫁による購買数などの減少も懸念される。

### ■スーパー

10月は急な冷え込みにより、一気に冬物に売れ筋が移り、秋物の販売が不振だった。食品も買い控えや購入点数の減少がある。

### ■自動車販売

諏訪地方の10月の車庫証明件数は977件で、前年同月比67件、7.3%増加した。

### ■生花店

敬老の日や七五三で、リーズナブルな商品の店頭販売が伸び、ネット販売が落ち込んだ。

### ■飲食店

11月後半からの忘年会などの会食の予約、問い合わせが昨年より多くなっている。人員不足により機会損失が恒常化している店がある。

### ■イベントホール

地元団体の総会と懇親会の使用が多く、冠婚葬祭の需要は少ない。

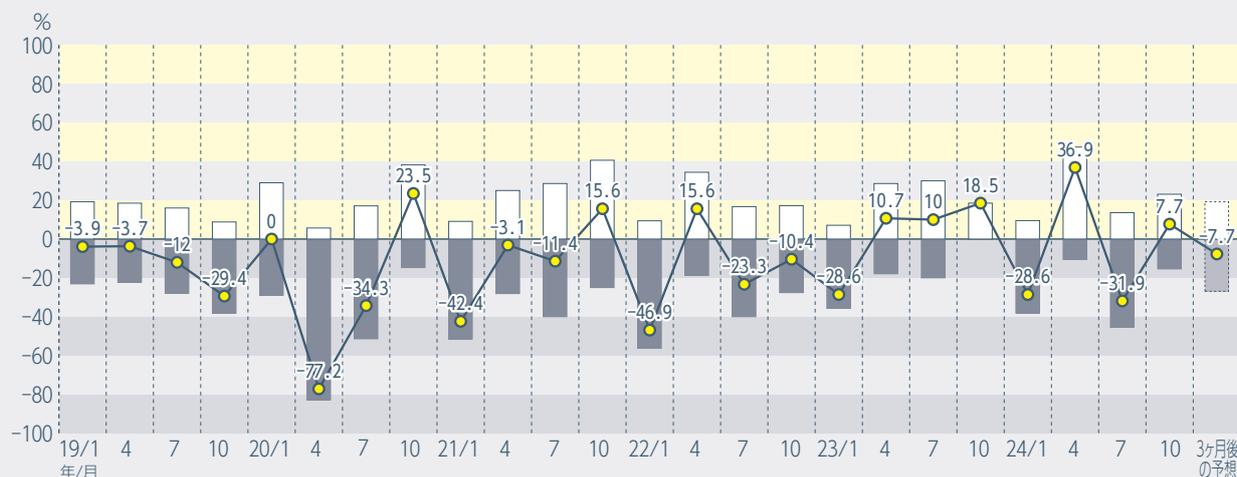
### ■靴店

旅行者の増加に伴い、靴の購入も増えている。特にスニーカーの売れ行きが伸びている。

## 企業のひとこと

- 季節の移り替わりや気温が異常で、売れ筋商品の予想と仕入が難しくなっている（生花店）。
- 秋、冬物の入替を二週間延ばした。季節は夏と冬しかない、と考えて仕入れをした方が良さそう（靴店）。
- 新車の納車遅れが徐々に改善され、新車購入に伴う冬タイヤとホイールセットの販売数が伸びている。当初、来春の納車案内をした新車が年末に早まったことで、急遽冬タイヤの購入需要が発生した（タイヤ販売店）。
- インバウンド誘致に注力するあまり、ブランドイメージを転換しすぎると、今は良くても将来が不安。外国人の日本嗜好は一種のブームと思われ、いずれは来なくなってしまうのではないか。ブランドを損なわず高級志向の固定客を逃がさない工夫が必要だと思う（ドライブイン）

### ● 商業全社：「3カ月前」と比べた業況判断DIの推移





## 前年同期との比較

前回と比べ、**業況判断DI**が27.3から41.7へ**改善**した。宿泊客数DIは0.0で前回と変わらないものの、**価格転嫁が進み**、客単価DIが前回の36.4から50.0へ伸び、売上DIが前回の27.3から58.3へ改善した。材料や電気などのコストは低下した企業がなく、上昇した企業が前回の54.5%から75.0%へ増加している。

## 3ヵ月後の予想

**冬に向かう季節要因**で、**業況予想DI**は**好転**予想の企業がなく、前回の45.4から△50.0に**悪化**した。売上DIや宿泊客数DIが低下する中で、材料や電気などのコストは低下予想の企業がなく、66.7%が上昇を予想している。価格転嫁DIは8.3%の完了に対し、25.0%の企業が転嫁不足を予想している。

### ■ 上諏訪温泉

諏訪湖温泉旅館組合加盟14施設総体の10月の客室稼働率は88.2%（前年は82.9%）と高水準だった。個人客が中心で、素泊まりも多い。インバウンドは全体の6.4%となった。コロナ禍は完全に脱した。スタッフの確保に加え、宿泊客のリピータ化やDX化が今後の課題。

### ■ 下諏訪温泉

紅葉が遅れ、例年よりやや客足は少なかったが、週末の予約は多かった。

### ■ 蓼科・白樺湖・富士見高原

三連休が一度あった10月は、紅葉が遅れて時期が合わず、宿泊客数は昨年より若干減少したが、宿泊料金の値上げで売上を伸ばした施設が多い。車山高原で開催された「フレンチブルーミーティング」は、700台以上のフランス車が集まった。

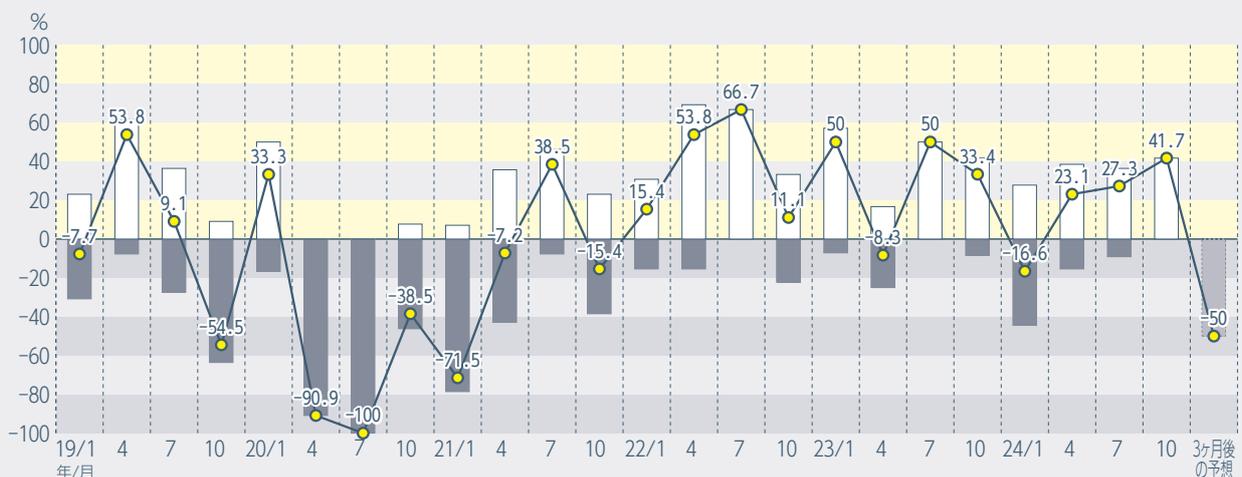
### ■ 諏訪大社

上社・下社合わせた10月の参拝者数は、約96,000人だった。前年同月比約4,500人、4.9%増加した。

## 企業のひとこと

- インバウンド誘致はオーバーツーリズムの心配の方が大きく、目先しか見ていない印象がある。それより宿場町としてのブランドをしっかり作り、国内に広く発信し、富裕層や高級志向のお客さまに繰り返し利用してもらえる観光地を目指したいと思う（旅館）。
- 米や野菜が高騰する中、食材の松茸などが遅れて豊作になり、毎週メニュー構成を変更する必要性があり大変な作業となった（旅館）。
- 今年はラニーニャ現象の特徴が出現していることから、昨年より厳しい寒さになることが予想されているが、実際どうなるのか全く見当がつかない（観光施設）。
- アメリカ大統領選挙の結果が、経済にどのような影響を及ぼすのか（観光施設）。

### ●観光・サービス業全社：「前年同期」と比べた業況判断DIの推移





## 3ヵ月前との比較

業況判断DIは「好転」が13.0%、「悪化」が4.3%の8.7となり、前回の4.5から改善した。外注発注量DIは前回の4.6から17.4へ改善。外注する企業が増えている。上昇が続く建設資材に対し、価格転嫁は完了した企業がなく、8.7%（前回4.5%）が「転嫁不足」とした。

## 3ヵ月後の予想

業況判断予想DIは、「好転」「悪化」とも8.7%の0.0で、前回と同値だった。資材等のコストDIは上昇が30.4%、低下が4.3%の26.1で、さらにコスト上昇が続くと見る企業が多い。価格転嫁は、「完了」が4.3%（前回9.1%）、「不足」8.7%（前回4.5%）で、転嫁不足を予想する企業が増えた。

## 9月の新設住宅着工戸数

諏訪地方の合計は70戸で、前年同月比9戸減少（△11.4%）した。持家は7戸減少の49戸、貸家は5戸増加の20戸、分譲は8戸減少の0戸だった。2024年4月～9月の累計着工戸数は604戸で、前年同期比137戸増加（29.3%）した。長野県全体は905戸で、前年同月比6.4%減少した。

## 10月の諏訪地方市町村からの受注状況

建築工事1件72百万円、土木・水道工事55件469百万円、その他工事22件213百万円の合計78

件754百万円だった。前年同月比で、36件463百万円増加（159.0%）した。

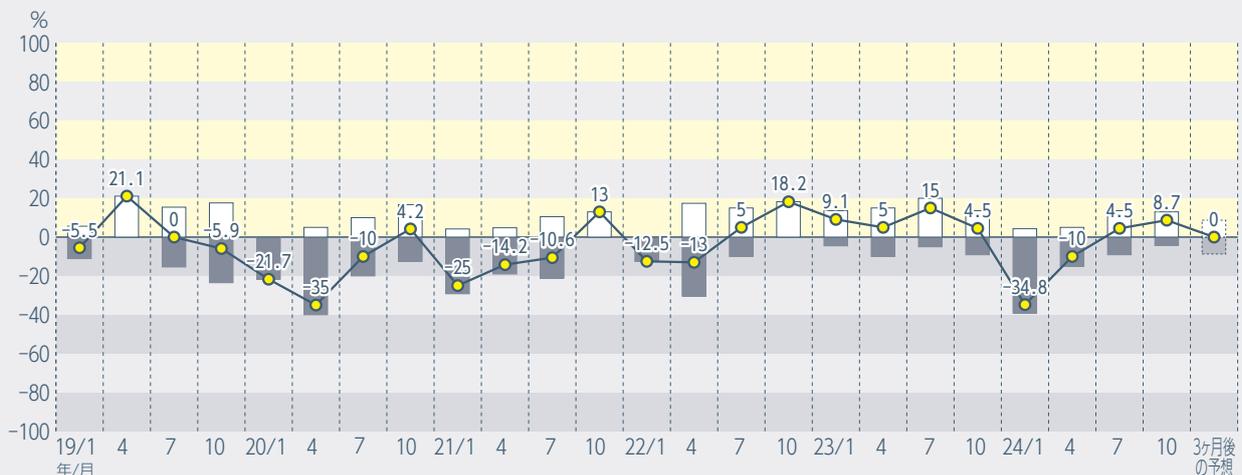
## 10月の地元企業が受注した国県関係の公共工事

合計22件842百万円で、前年同月比で件数は4件増加し、契約金額は214百万円増加（34.1%）した。2024年4月～10月の累計は、74件5,812百万円だった。前年同期比で件数は11件増加し、契約金額も2,770百万円増加（91.0%）した。

## 企業のひとこと

- 与党が過半数を取れず、今後の政権運営が心配。予算などに影響が出ないようにしてもらいたい。
- 働き方改革のため、来年1月から勤務を週休2日制にする。政治動向により公共工事の発注がどうなるのか懸念している。
- 公共工事は大きな影響はないが、民間工事は原材料費の高騰分の吸収ができず、収益面が厳しくなってきた。
- 諏訪圏域の公共工事の発注状況は低調で、全県的にも公共工事の発注状況は思わしくない。大口の工事は地区外からの参入もあり競争が激化している。
- 公共工事に関して比較的小口の工事が多く、人員の配置が難しい。限られた業者が取り合っていくのではない。

## 建設業全社：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移



# 収益性状況

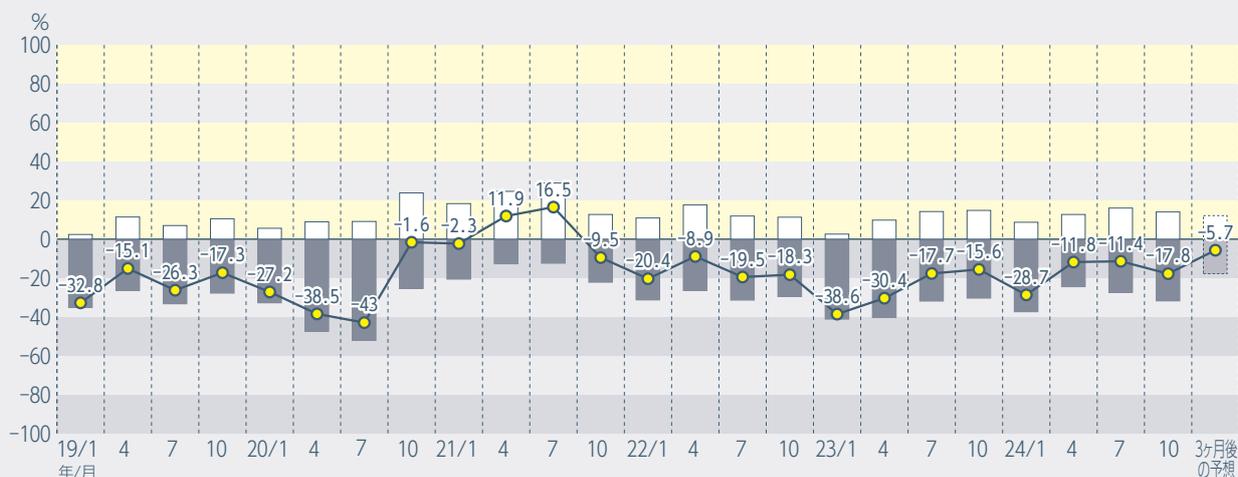
## 3ヵ月前との比較

回答全社の収益性判断DIは「好転」企業13.7%、「悪化」企業25.0%の△11.3で、前回調査時の△10.5から悪化した。製造業は△17.8で、前回の△11.4から悪化幅が広がった。非製造業は、前回大幅に悪化した商業の悪化幅が縮小したが、観光・サービス業で悪化企業が増加した。多くの業種で、材料やエネルギー高、賃金上昇など収益を圧迫する要因が継続している。

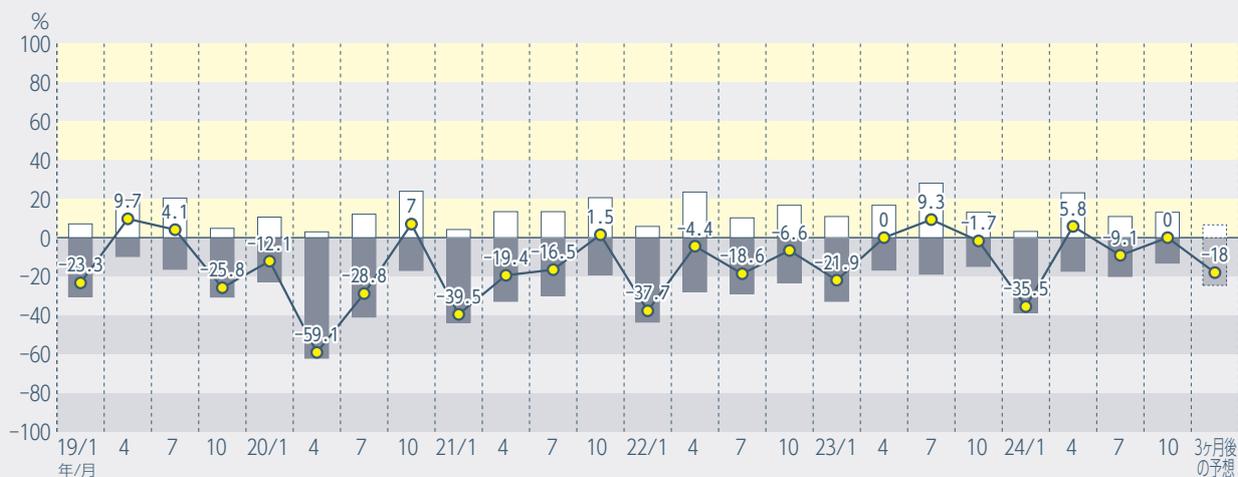
## 3ヵ月後の予想

回答全社の収益性予想DIは「好転」企業10.1%、「悪化」企業20.2%の△10.1で、前回の6.3から悪化した。製造業は「悪化」予想の企業が上回る△5.7で、前回の3.7から悪化した。非製造業は△18.0で前回の10.9から大幅に悪化した。観光・サービス業が△41.7と、季節要因で「好転」予想の企業がなかった。商業や建設業も「悪化」予想の企業が上回っている。

●製造業：3ヵ月前と比べた収益性DI



●非製造業：3ヵ月前と比べた収益性DI



## 雇用状況

2024年9月の諏訪地方の有効求人倍率は、前年同月を0.13ポイント下回り、前月を0.01ポイント上回る**1.38倍**だった。**21ヵ月連続で前年同月を下回った**。県内は前月と同じ1.30倍、全国は前月から0.01ポイント上昇の1.24倍だった。全国の完全失業率は、前月比0.1ポイント低下の2.4%だった。ただ、全国的に景気の先行指標とされる新規求人数は、前年同月比減少し、原材料や光熱費の上昇で求人を探る動きがあった。

諏訪地方は、**新規求人数**が1,324人で、前年同月比291人減少(△18.0%)し、**18ヵ月連続で前年同月を下回った**。新規求職者数は674人で、前年同月比1人増加(0.1%)した。産業別の前年同月比の新規求人数は、金融・保険・不動産業が100%増加し、製造業が△8.4%、飲食店・宿泊業△63.6%、卸売業・小売業△33.7%、医療・福祉△21.0%と減少した。

## 経営上の課題 (3つまでの複数回答)

経営上の課題として①製造業は売上減少と労働力確保②商業は労働力確保と売上減少、人件費③建設業は労働力確保と人件費④観光・サービス業は労働力確保と人件費だった。

**「労働力確保」が依然、全業種の課題の上位に上がる一方で、賃金上昇で「人件費」が主な課題**となってきた企業が増加している。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	78	61	9	5	3
単価の引下げ	12	8	1	2	1
競争激化	36	20	8	6	2
資金繰り	35	26	5	3	1
人件費	58	34	9	8	7
労働力確保	95	54	15	19	7

## 諏訪地方主要経済指標

	実数	前年同期比
有効求人倍率【9月】ハローワーク諏訪管内	1.38倍	△0.13ポイント
国県公共工事【10月】 (税抜・地元企業受注分)	件数	4件
	金額	214百万円
6市町村公共工事受注【10月】 (税抜・業務委託除く)	件数	36件
	金額	463百万円
車庫証明件数【10月】(諏訪地方合計)	977件	7.3%
新設住宅着工件数【2024年4月～9月(諏訪管内)】	604戸	29.3%

# 2024年10月の状況 (企業%) ●材料・電気等コスト ●価格転嫁

## ●材料・電気等コスト

	3ヵ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヵ月後の予想				
	回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	上昇	不変	低下	
全 体	168	49.4	50.6	0.0	168	66.1	33.3	0.6	168	48.2	50.6	1.2	
製 造 業	107	47.7	52.3	0.0	107	68.2	30.8	0.9	107	45.8	53.3	0.9	
規 模	1~29人	56	48.2	51.8	0.0	56	76.8	23.2	0.0	56	50.0	50.0	0.0
	30~99人	38	50.0	50.0	0.0	38	60.5	36.8	2.6	38	42.1	55.3	2.6
	100人~	13	38.5	61.5	0.0	13	53.8	46.2	0.0	13	38.5	61.5	0.0
中 分 類	金属製品 製造業	30	40.0	60.0	0.0	30	70.0	26.7	3.3	30	43.3	56.7	0.0
	一般機械 製造業	25	36.0	64.0	0.0	25	60.0	40.0	0.0	25	40.0	60.0	0.0
	電気機械器具 製造業	22	54.5	45.5	0.0	22	77.3	22.7	0.0	22	45.5	54.5	0.0
	輸送用機械 器具製造業	11	45.5	54.5	0.0	11	54.5	45.5	0.0	11	36.4	63.6	0.0
	精密機械器具 製造業	8	50.0	50.0	0.0	8	75.0	25.0	0.0	8	50.0	50.0	0.0
非 製 造 業	61	52.5	47.5	0.0	61	62.3	37.7	0.0	61	52.5	45.9	1.6	
商 業	26	61.5	38.5	0.0	26	65.4	34.6	0.0	26	65.4	34.6	0.0	
建 設 業	23	30.4	69.6	0.0	23	52.2	47.8	0.0	23	30.4	65.2	4.3	
観光・サービス業	12	75.0	25.0	0.0	12	75.0	25.0	0.0	12	66.7	33.3	0.0	

## ●価格転嫁

	3ヵ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヵ月後の予想				
	回答 企業数	完了	不変	不足	回答 企業数	完了	不変	不足	回答 企業数	完了	不変	不足	
全 体	168	11.3	69.6	19.0	168	22.6	56.0	21.4	168	12.5	69.0	18.5	
製 造 業	107	13.1	66.4	20.6	107	22.4	55.1	22.4	107	12.1	68.2	19.6	
規 模	1~29人	56	12.5	67.9	19.6	56	21.4	57.1	21.4	56	14.3	66.1	19.6
	30~99人	38	15.8	60.5	23.7	38	26.3	47.4	26.3	38	10.5	68.4	21.1
	100人~	13	7.7	76.9	15.4	13	15.4	69.2	15.4	13	7.7	76.9	15.4
中 分 類	金属製品 製造業	30	13.3	70.0	16.7	30	13.3	70.0	16.7	30	10.0	76.7	13.3
	一般機械 製造業	25	16.0	76.0	8.0	25	16.0	68.0	16.0	25	16.0	72.0	12.0
	電気機械器具 製造業	22	13.6	45.5	40.9	22	27.3	31.8	40.9	22	9.1	50.0	40.9
	輸送用機械 器具製造業	11	9.1	72.7	18.2	11	18.2	63.6	18.2	11	9.1	81.8	9.1
	精密機械器具 製造業	8	0.0	87.5	12.5	8	12.5	62.5	25.0	8	0.0	75.0	25.0
非 製 造 業	61	8.2	75.4	16.4	61	23.0	57.4	19.7	61	13.1	70.5	16.4	
商 業	26	11.5	65.4	23.1	26	30.8	42.3	26.9	26	23.1	57.7	19.2	
建 設 業	23	0.0	91.3	8.7	23	4.3	82.6	13.0	23	4.3	87.0	8.7	
観光・サービス業	12	16.7	66.7	16.7	12	41.7	41.7	16.7	12	8.3	66.7	25.0	

# 2024年10月の状況 (企業%) ●資金繰り ●自社の業況

## ●資金繰り

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想					
	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	
全体	168	7.1	77.4	15.5	-8.4	168	10.7	73.2	16.1	-5.4	168	6.0	76.8	17.3	-11.3	
製造業	107	8.4	72.0	19.6	-11.2	107	14.0	66.4	19.6	-5.6	107	6.5	79.4	14.0	-7.5	
規模	1~29人	56	7.1	64.3	28.6	-21.5	56	10.7	57.1	32.1	-21.4	56	5.4	73.2	21.4	-16.0
	30~99人	38	10.5	78.9	10.5	0.0	38	23.7	71.1	5.3	18.4	38	7.9	84.2	7.9	0.0
	100人~	13	7.7	84.6	7.7	0.0	13	0.0	92.3	7.7	-7.7	13	7.7	92.3	0.0	7.7
中分類	金属製品 製造業	30	6.7	66.7	26.7	-20.0	30	20.0	63.3	16.7	3.3	30	10.0	76.7	13.3	-3.3
	一般機械 製造業	25	12.0	68.0	20.0	-8.0	25	8.0	64.0	28.0	-20.0	25	0.0	84.0	16.0	-16.0
	電気機械器具 製造業	22	4.5	86.4	9.1	-4.6	22	4.5	81.8	13.6	-9.1	22	9.1	81.8	9.1	0.0
	輸送用機械 器具製造業	11	27.3	54.5	18.2	9.1	11	18.2	63.6	18.2	0.0	11	0.0	81.8	18.2	-18.2
	精密機械器具 製造業	8	0.0	75.0	25.0	-25.0	8	12.5	62.5	25.0	-12.5	8	12.5	75.0	12.5	0.0
非製造業	61	4.9	86.9	8.2	-3.3	61	4.9	85.2	9.8	-4.9	61	4.9	72.1	23.0	-18.1	
商業	26	0.0	88.5	11.5	-11.5	26	0.0	80.8	19.2	-19.2	26	7.7	73.1	19.2	-11.5	
建設業	23	0.0	100.0	0.0	0.0	23	8.7	91.3	0.0	8.7	23	4.3	73.9	21.7	-17.4	
観光・サービス業	12	25.0	58.3	16.7	8.3	12	8.3	83.3	8.3	0.0	12	0.0	66.7	33.3	-33.3	

## ●自社の業況

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想					
	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	
全体	168	21.4	60.7	17.9	3.5	168	23.2	45.8	31.0	-7.8	168	14.9	64.9	20.2	-5.3	
製造業	107	20.6	57.0	22.4	-1.8	107	24.3	37.4	38.3	-14.0	107	16.8	65.4	17.8	-1.0	
規模	1~29人	56	21.4	57.1	21.4	0.0	56	23.2	33.9	42.9	-19.7	56	17.9	62.5	19.6	-1.7
	30~99人	38	21.1	57.9	21.1	0.0	38	28.9	36.8	34.2	-5.3	38	15.8	65.8	18.4	-2.6
	100人~	13	15.4	53.8	30.8	-15.4	13	15.4	53.8	30.8	-15.4	13	15.4	76.9	7.7	7.7
中分類	金属製品 製造業	30	13.3	60.0	26.7	-13.4	30	30.0	40.0	30.0	0.0	30	26.7	53.3	20.0	6.7
	一般機械 製造業	25	20.0	64.0	16.0	4.0	25	20.0	36.0	44.0	-24.0	25	0.0	72.0	28.0	-28.0
	電気機械器具 製造業	22	31.8	45.5	22.7	9.1	22	18.2	50.0	31.8	-13.6	22	22.7	72.7	4.5	18.2
	輸送用機械 器具製造業	11	18.2	72.7	9.1	9.1	11	18.2	36.4	45.5	-27.3	11	0.0	72.7	27.3	-27.3
	精密機械器具 製造業	8	12.5	62.5	25.0	-12.5	8	37.5	12.5	50.0	-12.5	8	25.0	62.5	12.5	12.5
非製造業	61	23.0	67.2	9.8	13.2	61	21.3	60.7	18.0	3.3	61	11.5	63.9	24.6	-13.1	
商業	26	23.1	61.5	15.4	7.7	26	11.5	61.5	26.9	-15.4	26	19.2	53.8	26.9	-7.7	
建設業	23	13.0	82.6	4.3	8.7	23	21.7	60.9	17.4	4.3	23	8.7	82.6	8.7	0.0	
観光・サービス業	12	41.7	50.0	8.3	33.4	12	41.7	58.3	0.0	41.7	12	0.0	50.0	50.0	-50.0	

# 2024年10月の状況 (企業%) ●収益性 ●労働力 (パート含む)

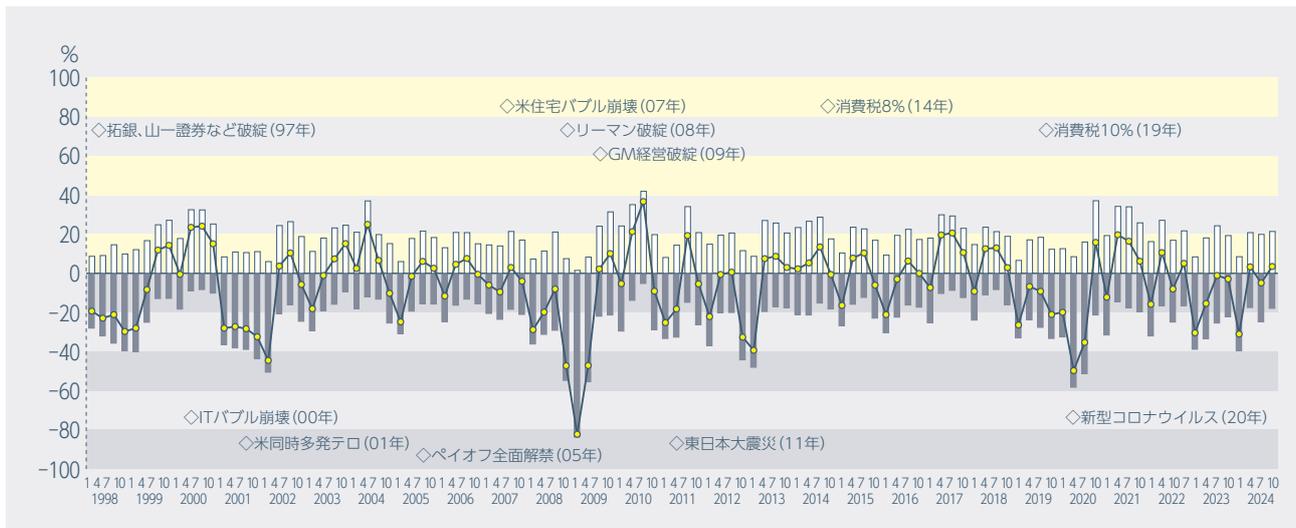
## ●収益性

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想					
	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	
全体	168	13.7	61.3	25.0	-11.3	168	17.9	56.0	26.2	-8.3	168	10.1	69.6	20.2	-10.1	
製造業	107	14.0	54.2	31.8	-17.8	107	19.6	50.5	29.9	-10.3	107	12.1	70.1	17.8	-5.7	
規模	1~29人	56	16.1	50.0	33.9	-17.8	56	19.6	48.2	32.1	-12.5	56	12.5	67.9	19.6	-7.1
	30~99人	38	10.5	60.5	28.9	-18.4	38	21.1	55.3	23.7	-2.6	38	13.2	68.4	18.4	-5.2
	100人~	13	15.4	53.8	30.8	-15.4	13	15.4	46.2	38.5	-23.1	13	7.7	84.6	7.7	0.0
中分類	金属製品 製造業	30	20.0	40.0	40.0	-20.0	30	26.7	50.0	23.3	3.4	30	20.0	60.0	20.0	0.0
	一般機械 製造業	25	12.0	68.0	20.0	-8.0	25	12.0	56.0	32.0	-20.0	25	4.0	84.0	12.0	-8.0
	電気機械器具 製造業	22	13.6	59.1	27.3	-13.7	22	13.6	54.5	31.8	-18.2	22	13.6	72.7	13.6	0.0
	輸送用機械 器具製造業	11	9.1	63.6	27.3	-18.2	11	18.2	45.5	36.4	-18.2	11	0.0	72.7	27.3	-27.3
	精密機械器具 製造業	8	12.5	62.5	25.0	-12.5	8	37.5	37.5	25.0	12.5	8	12.5	75.0	12.5	0.0
非製造業	61	13.1	73.8	13.1	0.0	61	14.8	65.6	19.7	-4.9	61	6.6	68.9	24.6	-18.0	
商業	26	7.7	76.9	15.4	-7.7	26	15.4	61.5	23.1	-7.7	26	11.5	61.5	26.9	-15.4	
建設業	23	4.3	91.3	4.3	0.0	23	13.0	65.2	21.7	-8.7	23	4.3	82.6	13.0	-8.7	
観光・サービス業	12	41.7	33.3	25.0	16.7	12	16.7	75.0	8.3	8.4	12	0.0	58.3	41.7	-41.7	

## ●労働力 (パート含む)

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想					
	回答 企業数	増加	不変	減少	DI	回答 企業数	増加	不変	減少	DI	回答 企業数	増加	不変	減少	DI	
全体	168	7.1	79.2	13.7	-6.6	168	16.1	66.1	17.9	-1.8	168	7.1	86.9	6.0	1.1	
製造業	107	10.3	74.8	15.0	-4.7	107	16.8	63.6	19.6	-2.8	107	7.5	88.8	3.7	3.8	
規模	1~29人	56	12.5	73.2	14.3	-1.8	56	16.1	64.3	19.6	-3.5	56	10.7	83.9	5.4	5.3
	30~99人	38	7.9	76.3	15.8	-7.9	38	23.7	63.2	13.2	10.5	38	0.0	97.4	2.6	-2.6
	100人~	13	7.7	76.9	15.4	-7.7	13	0.0	61.5	38.5	-38.5	13	15.4	84.6	0.0	15.4
中分類	金属製品 製造業	30	10.0	76.7	13.3	-3.3	30	13.3	70.0	16.7	-3.4	30	10.0	86.7	3.3	6.7
	一般機械 製造業	25	12.0	80.0	8.0	4.0	25	12.0	68.0	20.0	-8.0	25	0.0	96.0	4.0	-4.0
	電気機械器具 製造業	22	13.6	77.3	9.1	4.5	22	27.3	59.1	13.6	13.7	22	9.1	86.4	4.5	4.6
	輸送用機械 器具製造業	11	18.2	72.7	9.1	9.1	11	27.3	54.5	18.2	9.1	11	0.0	100.0	0.0	0.0
	精密機械器具 製造業	8	0.0	75.0	25.0	-25.0	8	0.0	62.5	37.5	-37.5	8	0.0	100.0	0.0	0.0
非製造業	61	1.6	86.9	11.5	-9.9	61	14.8	70.5	14.8	0.0	61	6.6	83.6	9.8	-3.2	
商業	26	0.0	88.5	11.5	-11.5	26	3.8	69.2	26.9	-23.1	26	11.5	76.9	11.5	0.0	
建設業	23	0.0	91.3	8.7	-8.7	23	13.0	82.6	4.3	8.7	23	4.3	91.3	4.3	0.0	
観光・サービス業	12	8.3	75.0	16.7	-8.4	12	41.7	50.0	8.3	33.4	12	0.0	83.3	16.7	-16.7	

# 回答全社：業況判断DIの推移 (当金庫の調査開始から)



## 調査概要

DI調査:業況などが「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ①調査期間 2024年10月。
- ②調査内容 「2024年10月時点」の実績と、「3ヵ月前」と「前年同期」の業績比較および「3ヵ月後」の予想。
- ③調査方法 DI調査および約130社のヒアリング調査。
- ④DI回答数 168企業。
- ⑤回答率 67.2%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	160	40	30	20	250
回答数	107	26	23	12	168

# トランプ政権は日本経済に吉と出るか凶と出るか

株式会社小宮コンサルタンツ CEO  
小宮 一慶氏



トランプ氏が米国の次期大統領に選出され、来年1月20日に就任します。トランプ氏の選出直後には、株式市場は好感して反応しましたが、日本経済には懸念ももちろんあります。ひとつは、中国との関係です。選挙期間中に中国製品に60%の関税をかけるとトランプ氏は発言していました。トランプ氏特有のブラフ（はったり）の可能性もありますが、中国に対する風当たりがバイデン政権時よりも強くなることは明らかです。中国経済への依存度が大きい日本は心配です。

トランプ氏が前回大統領だった時期の経済情勢が大いに参考になると考え、今回の原稿ではそれらを振り返りながら、次期政権での経済運営や日本への影響を考察してみます。

	NYダウ	日経平均	ドル・円	TB3ヶ月
2017年1月	19,864	19,194	114.73	0.52
2018年1月	26,076	23,712	110.77	1.44
2019年1月	25,015	20,461	108.95	2.35
2020年1月	28,859	23,643	109.34	1.52
2021年1月	29,983	28,189	103.70	0.06
	ドル	円	円	%

まず株価と為替レートです。

2017年1月に就任したトランプ大統領ですが、その時のNYダウ平均株価は、表にあるように19864ドルでした。ちなみに大統領選挙が行われる直前、オバマ政権末期の2016年10月のダウ平均は18142ドルでしたから、新政権への期待もありそこから少し持ち上がった株価のレベルで政権をスタートさせました。

その後、トランプ氏が政権を担い、減税や景気刺激策をとったこともあり、NYダウは比較的順調に上昇し、米国でコロナの蔓延が本格的にはじまる直前の2020年1月には28859ドルまで上昇しました。その後コロナの影響が深刻になり、2020年3月には、一時的に22000ドル台まで急落しましたが、バイデン大統領に大統領選で敗れ、退任した2021年1月には、29983ドルまで再び上昇しました。

こうして見ると、トランプ氏が前回に政権を取った時期は、NYダウは後半にはコロナの影響を一時受けたものの、比較的堅調に上昇したと言えます。

その背後には、表にあるように、中央銀行であるFRBが、丁寧に金利の調整を行っているのが分かります。景気が過熱しそうだと金利を高め誘導し、景気が下落しそうだと金利を下げたのです。とくに、コロナ蔓延以降は、短期金利を一気にゼロ近辺まで下げました。

一方、日本の株価も前回のトランプ政権の時期には、

比較的順調に推移しています。同じ時期を見てみると、2017年1月には日経平均株価が19000円台だったのが、NYダウとある程度歩調を合わせるように上昇しました。2019年には日経平均は下落しましたが、こちらはのちに説明します。その後、2020年はコロナが蔓延しはじめ、経済に深刻なダメージを与え、一時18000円台まで下落しましたが、米国同様、その後は比較的順調に推移し、2021年1月には、28000円台をつけました。

株価は、ここで見たように比較的堅調でしたが、前回のトランプ政権時には日本経済に違った影響も与えています。先ほどの2019年の日本の株価の下落とも関係しています。

日本経済は米中摩擦の影響を大きく受けたのです。日銀が3ヶ月に一度、企業の景況感を調査している「日銀短観」を見ると、そのことが顕著です。

前回トランプ氏が就任した2017年の最後の日銀短観（12月調査）では大企業製造業は「25」とかなり良い数字でしたが、米中摩擦が激化した2019年は大幅に下落し、12月調査では「0」まで数値が下がりました。この年に米中摩擦の影響が一気に出たのです。

その当時に比べて現状の中国経済は、コロナ対策のための過剰生産と不動産不況のために、大幅に減速感を強めています。そういった中で来年1月にトランプ政権が発足するのです。

現状の米国経済は実質GDPが9四半期連続で拡大するなど比較的堅調ですが、中国経済はある意味「重症」です。それがさらにトランプ政権の政策で下押し圧力がかかります。米国のみならず、中国経済から大きな影響を受ける日本経済、とくに製造業の失速が心配です。

安全保障の問題も大きな懸念材料です。トランプ氏はウクライナへの支援の削減を以前から表明していますが、当然ロシアに有利に働きます。また、親密な同盟国であるイスラエルがからむ複雑な中東情勢への対応にも迫られます。

そうした中、中国は台湾へのプレッシャーを強めています。トランプ政権になり台湾への関心や関与が落ちることとなれば、中国がさらに台湾への関りを強める、場合によっては統一を早急に進める可能性もあり、日本も紛争に巻き込まれる可能性も否定できません。北朝鮮の問題も同様です。

いずれにしても、トランプ氏の今後の発言や新政権の具体的政策に注目です。

**諏訪信用金庫アプリ** ダウンロードはこちら→  
スマートフォンから簡単に**新規口座開設**や**残高照会**、  
**入出金明細の確認**などができます。登録は無料です。



長野県岡谷市郷田二丁目1番8号  
TEL 0266-23-4567  
FAX 0266-24-4055



ホームページ



Instagram

「諏訪の景気動向」についてのご意見、ご要望は  
諏訪信用金庫 総務部へ  
TEL 0266-23-4567